

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 8 月 8 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870900192		
法人名	医療法人 康仁会		
事業所名	グループホーム 桃太郎		
所在地	愛媛県四国中央市中曾根町994番地 (電話) 0896-24-9112		
管理者	藤田 昌代		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 6 月 18 日	評価確定日	平成 20 年 8 月 12 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 5 月 30 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 5 月 8 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	1,500 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 5 月 30 日事業所記入)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	2 名	要介護 2	3 名
要介護 3	4 名	要介護 4	名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 83 歳	最低 77 歳	最高 90 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲を山や田畑に囲まれ、緑豊かな住宅地にある2階建てのホームである。運営法人は地元の医療法人であり、看護師が24時間常駐する老人保健施設が隣接しており連携が取れている。また平成20年4月よりホームにも常勤の看護師を採用しており、利用者や家族は医療面でも安心して利用している。1年ほど前には家族会が発足しており、非常に協力的である。職員は感謝の気持ちを利用者へのサービス向上で表出しようと努力している。地域の方に手作り作品講座への参加を呼びかけ、アンケートを実施するなど、開かれたホームづくりに管理者は尽力している。利用

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

水分摂取量について、毎日の確認を個人記録へ転記していなかったため、記録に残すことにより個人に合った摂取量が確かめられるようになり、利用者の健康管理に役立っている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

管理者は職員に評価のねらいや活用方法を説明している。職員は前年度評価にも目を通してから今回の評価を行い、自分の分かる範囲で記入している。月1回の職員会議で話し合い、管理者が意見をまとめて作成している。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議ではホームの現状や行事について説明している。会議終了時に参加者の意見を取り入れて次回のテーマ設定を行っている。回を重ねる毎に地域の方や行政からの前向きな助言が得られるようになっており、ホームの活動はより活発になっている。会議で提案されたイベント等への参加は利用者には良い刺激となり、職員にとっては職場の活気づりに役立っている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

意見箱や苦情ノートも玄関先に設置しているが、面会時に家族の意見を聞くことが多い。運営推進会議や家族会の発足によりホームと家族がより親しくなり、話しやすい雰囲気が出てきている。介護計画立案の前後も家族と相談する機会を設けている。年2回家族アンケートを実施している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

隣接する老人保健施設と共に地区に協力費を納めている。地域の方から清掃活動についてできる範囲でお願いされるなど、友好的な関係ができています。ホームの周りを近所の方や子どもたちが通る時に挨拶するのを、利用者は楽しみにしている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム桃太郎

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名 藤田 昌代

評価完了日 平成 20 年 5 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域の中でその人らしく安心して生活できるよう事業所独自の理念を作っている。 (外部評価) 職員が「安全、安心、安らぎ大家族」の理念と3つの支援目標を作っている。「地域と家族の交流」の支援目標のもと、管理者、職員は利用者が地域の一員として暮らせるよう心がけている。		以前の理念が職員の目線で作っているようなところがあり、より利用者や家族の気持ちに立った分かり易い理念に変更している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日々の業務やカンファレンス等でも話し合い意見の統一を図っている。 (外部評価) 管理者、職員はネームプレートの裏に理念を書いたカードを入れている。介護の途中でも理念を合言葉のように職員同士で声をかけ合っている。職員は利用者をきめ細やかに支援することに喜びを感じ、大家族のような雰囲気の中で働くことを楽しいと感じている。		職員会ではより利用者と家族の立場に立った理念について意見交換を行い見直しをしたり、実践に向けて取り組んでいる。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) パンフレットを用い、運営推進会議や家族交流会等で分かりやすく伝える工夫をしている。		家族交流会や運営推進会議などで、事業所の理念や方針などを繰り返し説明している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的に散歩へ出掛け、近隣の人達と挨拶を交わしている。子供達も立ち寄ってくれるので触れ合う機会も多い。	※	家族の同意を得たうえで、運営推進会議参加者や近隣の方には利用者のプライバシーに配慮しながら、事業所内の見学をして頂き、より理解を深めて貰っている。そのせいか、最近では気軽に入居者に声を掛けて頂いている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 四季折々出掛けたり、母体施設で盆踊りやお祭り、文化祭等でも沢山の人達と交流出来るように努めている。 (外部評価) 地域行事の情報等は自治会長から得られる。利用者はイベントや祭りに参加したり、見学に出かけている。地域の方と共に陶芸や絵手紙などを作るホーム内の講習会を「地域交流会」と名付けて催している。	※	地域交流会を開催し、イベント等に参加して貰い入居者や入居者家族とも交流して貰っている。自治会行事に参加できるものがないか自治会役員と話し合っており、今後少しずつ行事に参加していく予定である。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の参加者と出来ることがないか話し合っており、近隣に住んでいる独居高齢者の緊急装置の連絡先になっている。	※	運営推進会議等で、認知症や介護保険についての勉強会を行っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価での意見を参考にし、日々の業務の見直しやサービスの質の向上に積極的に役立っている。 (外部評価) 管理者は評価の意義を理解し、全職員に伝えて実施している。前回外部評価で懸案となった項目を細かく記録し、改善に意欲的に取り組み、利用者へのサービス向上につなげている。さらに、他のグループホームの評価も確認して参考にしている。		評価項目はホーム内に提示し家族にも見て頂き、意見を聞いている。運営推進会議でも外部評価について話し合いサービスの向上に役立っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議での内容、経過、参加者からの意見等を参考にし職員間で話し合いサービス向上に役立っている。 (外部評価) 会議では地域や行政から活発な意見や新しい情報が寄せられている。ホームに協力的な意見が多く、管理者はホーム運営に役立っている。職員は、地域行事の情報を、利用者が楽しめるか確認してから利用している。また、外部評価結果の報告も行っている。	※	運営推進会議では、これまでのホームの歩みを通して見て頂き、これからどういふことが必要になって来るのかなど、いろいろな立場の方から意見を聞いている。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 実際に市町村窓口にいたり、電話等で相談する機会をつくり、サービスの質の向上に取り組んでいる。 (外部評価) 市担当者が出席し、行政面のアドバイスを得ている。また、市のふれあい相談員が月1回、2名来訪しており、利用者やホームの様子を見てもらっている。相談員が現状を相談員会議で報告して、市担当者の回答をホームに伝えるなど、双方向の情報交換ができています。		自分の事業所では対応できない事例などがあつた場合など相談して入る。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者が研修にいき、制度について学んでおり、他の職員と共有できるように勉強会を開いている。	※	必要なときに支援出来る体制が万全ではない。引続き、全職員が理解出来るよう勉強会を行っていく。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待について研修などに参加している。グループホーム内での虐待が見過ごされてないか注意しながら、日々の様子を観察し、業務の見直しをしている。	※	母体施設が行っているアンケートを実施してもらい、職員一人ひとりのストレス度を出している。ストレス度が高い職員には、メンタルケアを行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前調査を行い、契約時には丁寧に説明し同意を得てサインを頂くようにしている。契約時には、しっかりと本人や家族の要望や今後の方針も聞いている。	※	本人や家族が疑問に思っていることや心配している点等は、分かり易い言葉で納得するまで説明している。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情ポストを設置しており、半年に1回は利用者家族へアンケート調査も行っている。苦情発生時マニュアルも作成しており、速やかに対処できるようにしている。	※	家族会が結成され、個人的に言いにくかったことなど会長を通して言ってもらえるようになり、家族の声が身近に聞けるようになった。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族が訪問された時に伝えたり、桃太郎だよりでも近況を報告している。金銭管理については、出納ノートに記入し毎月家族にコピーした物を送付している。 (外部評価) 「ホーム便り」と、健康状態や近況報告をまとめた「個人便り」を発行している。金銭出納帳のコピーなどと共に、月1回手渡ししか郵送している。必要に応じて、1人の利用者につき複数の家族に送付している。	※	個々の健康面に関しては、だよりと一緒に健康通信を送付し、家族に状態を伝えている。特に、心身の変化が見られる時は、速やかに家族に連絡し相談するようにしている。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議、アンケート調査等が出た意見や苦情等は、改善策を職員間で話し合っている。まとめた結果は家族はもちろんのこと運営推進会議でも報告している。 (外部評価) 家族会では家族だけの話し合いの時間を持ち、代表から意見を聞いている。介護計画作成前後に家族と話し合いを持ち、その際に運営方法についても意見を傾聴している。	※	家族会や運営推進会議などで、率直な意見を聞けるようになり、業務の見直しやサービスの質の向上に反映できるようになった。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会では皆の意見を聴き、話し易い雰囲気をつくるようにしている。		毎月1回、職員会を開催し、職員の意見や提案を聞いている。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な体制が勤務の調整を図ってくれている。		職員の急病や急な休みの時に、母体施設より応援にきてくれる。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 急な離職や異動時は、なるべく馴染みの深い職員に入ってもらおうよう働きかけている。なるべく母体施設や同じグループホームより来て貰うようにしている。 (外部評価) 法人内の老人保健施設やグループホーム間での異動がある。昼夜の勤務マニュアルを作成し、熟練の職員が新しい職員に業務を伝えている。新職員は家族交流会の際に紹介している。介護方法について新職員の新しい気付きを全職員が共有し、見直している。		職員の異動があった場合など、家族交流会等で職員を紹介し理解を得ている。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修はもちろんの事、外部帰還での研修会にも出来るだけ参加するようにしている。 (外部評価) 職員は同法人内・外で行なわれる研修に業務内・外で参加している。職員は持ち帰った研修内容や、自分で興味のある事柄について勉強したことを職員会議で発表している。音楽療法などの講習を受けた看護職員もいる。	※	管理者は、職員に対して、実務経験に応じた資格取得やスキルアップに向けての支援を行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 各種研修会時や会議などで交流を深め、サービスの質の向上を目指している。	※	ケアマネの連絡協議会に出席したり、各種研修に参加しネットワークづくりをしている。ただ、一般職員が他事業者と交流をもつ機会が少ないので取り組んでいきたい。
			(外部評価) 県や地域の研修に参加し、研修で知り合った他のグループホームの職員と情報交換している。ホーム間の職員の相互訪問は検討中であるが、ビデオ研修等により他ホームの勉強をしている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) ストレスが上手く発散できない職員には、グループ内で行っているメンタルケアの研修に参加できるようにしている。心理相談員を配置し、メンタルケアに取り組んでいる。	※	職員の勤務が不規則な為、皆で集まってストレス発散できる機会が少ない。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けて支援を行っており、資格取得者には資格手当などを含む職能評価を行っている。	※	職員の個々の努力や実績を認め、各自が向上心を持って働けるような環境作りをしていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面談で本人の思いや不安を受け止め、理解しようとしている。		相談時に本人や家族に会って心身の状態を確認し、本人や家族の思いを理解しようとしている。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族のプライバシーに配慮しながら、事前にゆっくりお話しする機会を設け、次の段階へと繋げるようにしている。		家族の話をゆっくり聴き、家族が何を求めているか、事業所としてどのようなサービスを提供できるのかなど、わかりやすく説明している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、何を必要とされているのか見極め、援助方法を提案している。対応困難な場合は、地域包括支援センターや、他の事業所のサービスにつなげるなどしている。		可能な限り柔軟な対応ができるように、地域包括支援センターや地域の事業所と連携を取っている。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族に気軽に見学に来て頂いている。 (外部評価) 同法人の関連施設以外からの入居者も多く、見学を随時受け入れている。入居の場合は管理者が病院や自宅を訪問し、医師や家族から事前調査を十分に行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩であるという意識をもち、教えて頂いたり助けて頂いたりする場面がある。共に支え合える関係づくりに留意している。 (外部評価) 野菜の育て方や生活の知恵など、人生の先輩としてアドバイスをもらうことが多い。職員は、利用者一人ひとりの側で支援することを楽しみにしている。		入居者から昔の生活の知恵を教えて頂いたりしている。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の暮らしや気付きの情報を共有し、職員と家族が協力して本人を支えようとしている。		家族との情報交換を密にし、家族の思いが伝わるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の思いや状況を見極めながら、さりげなく外出や外泊を勧めている。家族と本人の思いが結びつくような働きかけを心がけている。	※	家族が疎遠にならないように、こまめに報告や相談をしている。行事の案内やホームだより、健康通信等も送付している。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人や親戚の方が気軽に来られ、お話をされている。		ホームで書いた絵手紙などを家族に送ったり、昔馴染みの方が尋ねて来られている。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 食事の準備や後片付けなど、日々の暮らしの中で個々の役割ができており、支え合う場面が多い。		気の合う入居者同士で散歩や買物に行ったり、寂しそうにされている方には職員が間に入り、他入居者とコミュニケーションがとれるように援助している。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 契約終了後も遊びに来て貰ったり、様子を聞いたりしている。家族からの相談にも乗っている。		契約終了後も挨拶をしたり、近況を聞かせて貰ったりしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のかかわりの中で、本人がどのように暮らしたいのかを、それとなく確認するようにしている。本人が上手く伝えられない場合は、表情等から推し測ったり家族から情報を得るようにしている。 (外部評価) 興味のあることや得意分野、好きなことを利用者との話や動作、顔つきから汲み取り、情報を共有している。職員は個人的なこだわりにも根気よく付き合い、利用者の納得いく暮らしを支えている。1人ひとりの生活史シートを作り、産まれてから現在に至るまでの記録に情報を追加しながら、介護の質を高めている。	※	家族の話や生活歴などを参考にし、本人の思いや暮らし方の希望を把握できるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、本人や家族からお話を聞くようにしている。		日々の暮らしの中で、機会があるごとにお話を聴くようにしている。分かりにくい点などは、家族の訪問時にお話を聞かせて貰うようにしている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 職員は情報を共有して、個々の生活リズムを把握するようにしている。その際には、本人のできる事に着目するようにしている。		本人のできる事や得意なことに着目し、ホームでの役割ができるように援助している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 日ごろのかかわりの中で本人の思いや要望を聞き、職員全員で意見交換やカンファレンスを行っている。 (外部評価) 介護計画を立てる前に、家族や職員からの情報を職員会議で話し合い、作成している。家族との話し合いでは、職員との意見のすり合わせを十分行い、作成後は家族の署名を得ている。		本人や家族の要望を聞きながら、出来る限り介護計画と一緒に作成するようにしている。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の期間に応じての見直しはもとより、心身の変化がみられたときには、本人や家族と相談し、介護計画の見直しを速やかに行うようにしている。 (外部評価) 3～4か月ごとに介護計画を見直しているが、1か月に1回の職員会議で利用者全員についての話し合いを行っている。健康状態等の状況に変化がある場合は、その都度新しく作成している。		毎月、職員全員で介護計画の見直し評価を行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 職員の気付いた点や状態の変化は個々に記録しており、職員間の情報共有を徹底している。介護計画の見直し評価は全職員で行っている。		勤務前の業務の引継ぎを徹底し、職員全員が日々の心身の状態や暮らしの様子が把握できるようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 運営推進会議などで認知症についての勉強会を行ったり、介護保険についての説明や情報提供をしている。 (外部評価) 病院への受診は家族や職員が付き添っている。初詣や花見、秋祭りなどの季節感を味わえる外出を行っており、隣接の施設で行われる歌や踊り、園児たちの集う集会や誕生会などの催しにも出かけている。		地域の民生委員からの相談を受けたり、法人内はもとより他の事業所などの情報提供を行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議などで、自治会役員や民生委員と意見交換する場を設けている。ふれあい相談員が月に一回来てくれており、地元の学生ボランティアも来てくれている。	※	今後、自治会や消防、警察などと連携をとり、災害時の協力要請などについて話し合っていく必要あり。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の希望により、母体施設で行っている訪問理容サービスを利用している。		入居申込時に対応困難な場合は、他の事業所と連携をとり、他のサービスを利用できるよう援助している。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今のところ、権利擁護などについて事例がないため、あまり活用する機会がないが、難しい事例で困った時など相談している。		権利擁護や困難事例などの発生時などに、地域包括支援センターに相談していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 事前調査のときに、本人や家族にかかりつけ医を聞いている。かかりつけ医がない場合など、協力病院があることを説明し適切な医療を受けられるように支援している。 (外部評価) 運営法人以外にも眼科や皮膚科、心療内科などの医療機関とも連携を取っている。定期健診は3か月に1度実施しており、未然に健康状態悪化を防ぐことに努めている。		心身の変化が見られた時や緊急時には、速やかにかかりつけ医に連絡し適切な医療を受けられる体制になっている。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力病院の医師に定期的に受診し、治療方針や認知症について説明をうけ、家族に説明している。	※	家族と認知症の専門医に定期的に受診されている。受診にさいして、本人や家族が不安に思っていることや、職員が相談したい事がある場合などは、必要に応じて受診介助し、適切な指示をもらっている。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 常勤看護師が利用者の健康管理を行い、病状の早期発見に努めている。夜間や緊急時には併設施設より、看護師が駆けつけてくれ、24時間相談、対応可能な状態になっている。		看護師と協力医療機関との連携も密にとれており、緊急時のマニュアルも備えている。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院関係者やご家族と情報交換を行い、早期退院に向けてアプローチしている。		入院時はサマリーを用いて情報を送り、入院中はこまめに見舞い状態を把握するようにしている。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末期の看取りケアは、現在のところ当ホームでは行っていないが、緊急時の対応については家族と繰り返し話し合っている。 (外部評価) 入居時に利用者や家族と話し合い、ホームとしての指針も決めている。現在は重度化した場合に病院対応を希望する家族が多い。	※	重度化した場合や終末期のあり方を家族とは話しているが、認知症もあり、本人とはなかなか話を詰めれない状態である。今後、その時々で本人の意向を家族を交え確認していく必要あり。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化した場合の指針を作成しているが、ターミナルケアは行っていない。しかし、急変した場合はすぐに対応できるよう、日頃からマニュアルに基づきスタッフで話し合っている。協力医療機関も24時間体制で対応してくれている。	※	当ホームで出来ることを職員間で話し合い、マニュアル化していく必要あり。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 退居時は、サマリーを用いて退去先へ情報伝達を行い、これまでの生活を継続できるよう心掛けている。		退居先へも訪問し、ダメージがないか、さりげなく確認している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。個人情報の取り扱いに関して、日頃より、職員全員で確認しあっている。 (外部評価) プライバシーに関する研修に参加している。職員は利用者との会話を楽しみながらも、個々人に合わせた優しい対応をしている。書類は事務室にあり、個人名が見える書類は鍵付きの棚に保管している。		秘密保持の徹底のため、職員には当事業所に入社時や異動時に誓約書を書いて貰っている。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 職員側で決めたことを無理に押し付けたりせず、自分で決めることができる雰囲気作りをしている。	※	利用者にあわせた声かけをしている。意思表示が難しい利用者に対しては、表情を読み取り、できるだけ自分で決める場面をつくれるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 集団としての流れを重視するのではなく、今どんな事がしたいのか本人の意向を聞き、尊重するようにしている。 (外部評価) 一日の流れは大まかに決まっているが、基本的に個人個人のペースに合わせた支援が行われている。	※	今後も個別ケアを重視した取り組みを行い、その人らしい生活ができるよう支援していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 家族とパーマをかけに行ったり、本人の要望で職員と一緒に化粧を手伝ったりしている。		本人の着たい洋服を着ていただいているが、自分で選べない入居者には声かけし、好みの洋服が着れるよう援助している。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 朝食以外は、母体施設にて調理されたものを利用者と一緒に盛り付けている。食器も陶磁器を使用し、見た目も大切にしている。職員も利用者と一緒に食べるようにしている。 (外部評価) 利用者は職員と共に配膳・下膳など、できることをしている。食事をゆっくり食べたい方にも、職員はゆったりとした見守りの支援を行っている。		管理栄養士に利用者の要望や医師の指示を伝え、メニューの参考にしたり、病状に合った食事が供給できている。誕生者がいる月には要望を聞き外出に出掛けている。朝食以外にも利用者と共に収穫した野菜や、近くの山で採れた山菜を調理し、季節感や収穫の喜び、季節感のあるおやつ作りなど食を楽しんで貰っている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の持っている病気などを把握し、好みのおやつ等を提供している。		本人の体調や時間を見ながら、梅酒を呑んで貰っている。また、クリスマスなどにはシャンパンで乾杯している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄のパターンを把握して、さりげなくトイレ誘導をするようにしている。		プライドを傷つけないような誘導の仕方や声掛けをしている。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴日は一人の入居者に対して週3回あり、個々のペースでゆっくり入浴して貰っている。 (外部評価) 週に3回は入れるように調整している。リビングの壁面には手作りの曜日別入浴表を掛け、利用者同士で声かけして入られている。		お湯はたっぷりはり、季節に合った自然の入浴剤（夏みかんの皮など）でリラックスできるよう配慮している。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の体調に注意しながら、日中はなるべく活動を促し、生活のリズムを整えるように支援している。		眠れない入居者についてはできるだけ本人の不安や心配事を取り除けるよう積極的に傾聴し、安心して休めるように支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 得意分野やできることに着目し、一人ひとりの力を発揮して貰えるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えている。 (外部評価) 外気浴を好む方には玄関先のベンチでくつろいでもらっている。手芸や折り紙を好む方は、他の利用者にも声をかけ、手作りを楽しんでいる。家事を好む方には茶碗洗いや洗濯物たたみをお願いしている。さまざまなレクリエーションも取り入れ、利用者は楽しんで毎日を送っている。	※	役割や楽しみがある方もいるが、一方で何もすることが無い方もいる。一人ひとりの毎日が充実したものになるよう支援したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の協力を得て小額のお金を持っている方もいるが、家族よりお金を預かり、事業所で管理している方が多い。		外出時など、職員の見守りや声掛けにて少しでもお金が使えるよう支援したい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気や本人の体調、希望に応じて、散歩やドライブなどを行っている。 (外部評価) 花を見ながら山道の散歩に出かけている。整形外科のリハビリテーションに週2回通う利用者もいる。家族が面会に来た際に外出する利用者も多い。	※	ただ単にドライブするのではなく、馴染みの場所や季節を肌で感じて貰える外出支援をしている。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 少し遠出する時は、予め計画を立て、職員の勤務調整をしている。	※	家族交流会などで、日帰り旅行の提案をし、家族にも協力を呼びかけている。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に絵手紙を送ったり、気軽に電話できるようにしている。		年賀状や暑中見舞いを出す為の支援をしている。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族や知人が気軽に訪ねて来れるような雰囲気作りを心掛けている。		仕事帰りなど気軽に訪ねて来られている。家族と気兼ねなく話せるよう配慮している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員会等で、自覚しない身体拘束をしていないか常に確認している。		身体拘束に関する勉強会に参加している。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) できるだけ鍵をかけないようにしているが、帰宅願望が強い時等はやむを得ず鍵をかけることもある。 (外部評価) 建物が山々に囲まれており、急な外階段や、洗濯物干し場に段差があるので、利用者の安全に考慮して、時間帯によって施錠している扉もある。	※	外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなくさりげなく一緒に付いて歩くようにしている。鍵をかけないで生活していけるよう工夫や改善が必要である。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は利用者と同じ空間で過ごしており、全員の状況を把握するよう努めている。夜間は数時間ごとに訪室し、様子を確認している。		2階の居室で過ごしている方には、さりげなく声掛けに行き、様子を観察している。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 職員は、利用者の状況に応じて、注意が必要な物品の置き場所などを常に話し合っている。		必要以上にしまいすぎて、意欲低下に繋がっていないか注意をしている。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハットを記録し、職員の共有意識を図っており、緊急時のマニュアルの見直しや事故防止のための話し合いを日頃より行っている。	※	事故を未然に防ぐ為の工夫をしたり、勉強会などに参加して学んだ事を職員間で共有している。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変や事故発生時のマニュアルを作成し、職員全員が把握し実践できるようにしている。年1回は、順番に救急救命法の講習に参加するようにしている。	※	年に1回は救急救命法の講習を受けているが、いざという時に確実に使えるよう繰り返し行っていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 事業所では毎月1回、避難訓練を実施している。年に1回は母体施設との合同消防訓練に参加し、消火器の使い方などの訓練を行っている。	※	運営推進会議などで、事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加や協力を得ながら避難訓練などを行えるよう働きかけていきたい。
			(外部評価) 山々や川などの自然環境に恵まれた好立地ではあるが、反面、災害時の対応は難しい。年1回の消防訓練や、月1回のホーム内避難訓練を実施し、記録に残している。夜間の災害時には、隣の老人保健施設に応援を依頼している。	※	同じ立地条件である近隣の方々に声かけをし、一緒に訓練を行うなどして互いの安全確保を考えていくことを期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に起こりうるリスクについて家族と話し合い、今後の対策を説明し、同意を得ている。入居後も、違うリスクが生じれば、その度家族と相談し対策方法や今後の方針について同意を得ている。	※	安全を優先するあまり、その方の自由な生活を阻害する事がないよう職員全員が対象方法を工夫していかなければならない。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 異常の早期発見のため、毎日、バイタルチェックを行い、表情や全身状態の観察などを行っている。		異変に気付いた場合は、速やかに看護師に連絡し医療機関と連携をとっている。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬マニュアルを説明し、服薬ミスが生じないように留意している。処方箋をカルテにとじており、薬の内容や副作用などを全職員が把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 適度な運動や水分補給をし、排便チェックは行っている。管理栄養士と連携をとり、食事内容にも留意している。		対策を講じても、自然排便が困難な場合は、医師に相談し必要な措置を講じている。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日寝る前に義歯洗浄を行い、ポリドントを用いて消毒も行っている。口腔内に異常があれば、協力歯科医院に受診し治療して貰っている。	※	拒否される利用者もいるが、なるべく毎食後行うよう働きかけていきたい。また、全職員が口腔ケアの重要性を研修で理解し、きちんとした介護技術を身に付けられるようにしたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の食事量を毎食後チェックし、一日の水分量も記録に残し全職員が情報の共有をしている。病気によっては水分の取り過ぎに注意が必要な方もいるので、夜勤者が最終チェックを行っている。 (外部評価) 管理栄養士が献立をたてている。昨年度の評価を活かし、適切な水分量の確保に努めている。職員は利用者が楽しく食事できるよう、楽しく会話を交わしながら支援している。		糖尿病等の利用者については、管理栄養士に専門的な観点からアドバイスをして貰っている。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 利用者及び家族に同意を頂き、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。感染予防に関しては各種研修に参加した職員が、職場に資料を持ち帰り勉強会を開いている。	※	ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用し、保健所の研修時に教えて貰った消毒薬を用い活用している。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板やふきんの漂白を行い、清潔を心掛けている。冷蔵庫の食品の賞味期限を確認し、食材の残りの点検をしている。		残ったご飯などは冷凍保存し、その際は日付を付けて早めに使用するようになっている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関まわりにベンチやプランターなどを置いて、明るい雰囲気になっている。紫陽花の時期には、散歩途中の方が気軽に立ち寄ってくれる。	※	以前は花を中心に植えていたが、家族会の協力もあり、玄関先で野菜を作り出した。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングに季節の花を飾ったり、他の利用者とはゆっくりお話できるようにソファに置いている。 (外部評価) ホーム内は清潔感があり、廊下は十分な広さがある。中庭もあり、窓や扉から庭木や山、田園の緑が眺められ、開放的である。台所や風呂場、トイレはやや広めの家庭サイズで、清掃も行き届いている。		季節を感じる壁紙をみんなで作って飾っている。トイレの入口に和のモチーフの暖簾を飾っている。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにもソファを置いているが、二階にもテーブルと椅子やテレビを置いており、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		利用者同士の関係性に配慮した居場所作りを心掛けている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真や絵、本人の馴染みの道具を居室に置いている。 (外部評価) 居室には、洗面台、エアコン、クローゼットが備え付けられている。寝具は家からの持ち込みだが、借りることもできる。居室には写真や手作り品、室内物干し竿等があり、各々過ごしやすい雰囲気がある。	※	入居時には、出来るだけ本人が落ち着ける馴染みのものを持って来て頂くよう家族にもお願いしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) リビングに温度計と湿度計を置いており、こまめに冷暖房の調整をしている。利用者の様子を見ながら換気をしたり、加湿器を使用したりしている。		気になる臭いは、ニオイノンノなどを用い消臭している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) リビングや居室の段差のないバリアフリーになっている。廊下やトイレには手すりがあり、自由に移動しやすくなっている。		リビングを一部リフォームし、利用者が移動しやすくなった。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 本人の居室が分かるように手作りの名札を飾っている。トイレの位置にもモチーフの暖簾が目印になっている。		エレベーターの開閉スイッチも分かりやすく表示している。
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関先にベンチを置いて外の景色を見ながらお話できるようにしている。		中庭からは紅葉、春には玄関先から桜が見え、季節を感じることができる。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価)	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	日々の暮らしの中で、利用者の思いを受け止め、何を望んでいるのかを把握している。意思疎通が困難な利用者には、表情等でコミュニケーションをとり、意向を掴んでいる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価)	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	業務でバタバタするような事があっても、必ず利用者の間に入りお話を時間をとり食事と一緒にとっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	居室でゆっくりしたり、リビングに出てきて他の利用者とお話したりしている。本人の体力に合った散歩や日光浴、趣味のものをされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	他の利用者とのコミュニケーションをとりにくい利用者には、職員が間に入り一緒に溶け込めるようにしている。職員はさりげなく冗談を言いながら利用者の間に入り、コミュニケーションをとっている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	散歩や外出など、できるだけ本人の要望に応じている。身体的に外出しづらい利用者にも、できるだけ戸外に出れるよう支援している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	毎日バイタルチェックを行い、異常の早期発見に努めている。体調不良時も、速やかに看護師が対応し、医療機関との連携も密にとっている。(看護師休日の介護職による受診援助時には、看護師が事前に医療機関に連絡したり、文書にて状態を報告したりしている)
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	家族との外出や外泊など、柔軟に対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価)	① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	日頃から、利用者や家族のお話をじっくり聞くようにしている。不安な事や心配事などある場合は、家族のプライバシーに配慮しながら、改善できるよう話し合い、当事業所だけでは無理な場合は、医療機関や他の事業所とも連携をとっている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価)	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	地域交流会にて陶芸教室や絵手紙教室等を開催しており、イベントを通して気軽に来て貰えるようになった。利用者の知人も気軽に訪ねて来てくれる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大に増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	自治会の役員や民生委員の方と知り合いになったことで、事業所の事も理解していただい、自治会行事への参加も呼びかけて貰えるようになった。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	明るい職員が多く、毎月のカンファレンスも全員出席で、活発な意見が出、サービスの質の向上を目指して頑張っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ほぼ満足しているよう思えるが、諸事情により職員が頑張っても解決できない問題もある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族会もでき、率直な意見をお聞きできるようになったが、まだまだ遠慮をされている、ご家族もあるのではないかと思います。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

「紙の町」という地域性から紙製品を使った作業療法、アニマルセラピーや音楽療法、季節の花や野菜を栽培する園芸療法等、広く浅くですがいろいろな方法で、認知症の進行を緩やかにできるよう取り組んでいます。また、個別ケア重視ということで、各種評価も整備し、より利用者のことを把握できるように、取り組み始めました。これからも、個々のニーズにあった、楽しくあったかいサービスを提供していけるよう、職員一同頑張っていきます。